

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町大字犬井道915番地1 (電話) 0952-45-1915		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年4月1日

【情報提供票より】(平成21年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り
------	----------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	1日当たり 800円		

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 73.7 歳	最低	72 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひげドクターのお元気でクリニック 下平歯科久保田診療所
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

入居者の笑顔と柔らかな表情が見られるホームである。季節の移ろいを実感でき、元からの家並みは、心の安らぎにもなっている。開設当初から近隣とのつきあいを大事にし、地域の行事等にもよく参加している。近所の方と顔なじみになっている入居者もある。地域の方が野菜作りボランティア活動をしており、食卓に上る野菜は家庭菜園からの収穫物である。毎月、入居者毎に作成した便りが家族に届けられ、喜ばれている。入居者の尊厳を尊重し、質の高い支援を追及しているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営に関する家族等意見の反映」では、従来のご意見箱からの要望等だけでなく、家族会に働きかけ、積極的に意見や要望等を聴いている。寄せられた声を大事にして質の向上を図っている。「災害対策」では、地域住民との具体的な協力体制を検討中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	日常の介護や支援を振り返る良き機会としている。全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上を図っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	推進会議の目的、サービスの現状、家族会の報告、外部評価、行事計画などそのときに応じて多様な内容が協議されている。地域のゲートボール大会に参加する等交流も深まっているが、更に充実した会議のあり方を模索している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご意見箱や苦情相談窓口の設置だけでなく、面会時や費用支払いの来所時、家族会の時、必ず声をかけ、意見を聴いたり、相談にのっている。寄せられた意見等は全職員で検討し、サービスの向上につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム開設当初から地域とのつながりが深い。入居者が地域に出かけるだけでなく、地域からホームへの訪問も多い。広い畑は、地域の方の協力で野菜が栽培され、食材に使用されている。ラジオ体操に広場を提供したり、小学生が手作りの写真立てを持って訪れる等の交流が行われている。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域住民との交流のもとでの介護」を運営方針としている。地域の人々とのつながりを大切にし「地域の中で安心して暮らし続ける家」を創りあげることが理念になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアにおいて常に基本理念を意識するために、理念を職員だけでなく、地域や家族にも分かる様に玄関や事務所に掲示している。また、管理者は日々の介護の中で、職員に具体的に指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設以来、地域とのつながりを大事にしている。入居者が職員と一緒に地域の除草作業や神社の祭り、ゲートボール大会等にも参加している。ホームの広場をラジオ体操の場所に開放もしている。ホームの夏祭りには、地域の方が大勢見えて一緒に楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を日頃のケアを振り返る良い機会とし、各職員が自己評価に取り組み、それを基にして会議がもたれている。出来ていること、そうでないことを全員で検討し、サービスの向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは家族会や地域住民の代表によって構成され、サービスの状況、行事の計画や報告、苦情や要望等が取り上げられている。会議での話題は運営に活かされており、地域の方の餅つき等行事への参加もその一つである。	○	運営推進会議がより有効に機能するために議題等を含めて、その内容を再検討している。地域、事業所が互いに為になる会議を目指しており、運営推進会議の更なる充実が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市役所の福祉担当者や介護事業所とよく連絡を取り合っている。問題点や不明な点があると、担当者にも連絡し、サービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話による報告だけでなく、ホーム開設依頼、毎月入所者毎に便りを家族に届けている。日常の具体的な暮らしぶりがわかり、家族にも喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は常に笑顔で何でも話しやすい雰囲気作りを心がけており、面会時には必ず声をかけ、意見や要望等を聴くようにしている。家族会もあり、そこでの意見や要望等を全員で検討し、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者はほとんどないが、職員の交代がある場合は引継ぎを十分に行っている。また、事前に入居者と接する機会を設けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画をたて実践している。法人内の勉強会だけでなく、外部の研修会にも積極的に参加している。研修受講後は全職員が共有できるよう報告会を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ市内の他のグループホームと交流の機会を設けている。見学に出向いたり、招いたりしての勉強会が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理のない入居を心掛けている。入居前に数回通所の形で遊びに来てもらったり、職員が面会に出向いたりしている。本人や家族とよく相談し、不安感を少なくする様になっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に対して家族の一員として、また経験豊かな人生の先輩として接している。行動や思いに共感しながらのケアである。職員は入居者の人生体験や生活の知恵から得ることが多いことを感謝しながら支援している。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に本人や家族と十分に相談し、話し合っている。入居後もちょっとした動作や言葉、表情等からも本人の思いを受け止めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者が自分らしく暮らせるように、関係者全員で介護計画を作成している。本人や家族ともよく相談し、意向や希望を十分に反映した計画である。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な3ヶ月毎の見直しと、状況の変化や家族の意向等を踏まえた随時見直しが行われている。新たな変化が見られない場合でも、本人本位の計画になっているかを常に意識している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かした24時間健康管理を強化している。通院や外泊の支援等、安心して暮らし続けるためのサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医による週に2回の訪問診察や希望する病院での受診を支援している。歯科医も週に1回の訪問診療をしている。協力医療機関とは何時でも受診や相談ができる関係にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に本人や家族に指針を説明し、意向を確認している。状態の変化があった場合には、その都度かかりつけ医等を交えて何度も家族と話し合い、方針を共有して、納得のいく形で終末期に対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りを職員も共有し、人間性を最大限に尊重している。接遇の際の言葉かけ、うなづき、許容、入室時の許可、役割りに感謝の気持ちを現わす等、その方の誇りやプライバシーに十分配慮した支援である。個人情報保護に関しても職員の誓約書があり、守られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるものの、あくまでも入居前の生活リズムや望んでいる生活ぶりにあわせた支援である。起床、就寝の時刻、食事の時間、散歩や買い物、自分なりの居場所、自由な時間の過ごし方等、柔軟な支援である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で栽培した野菜を食材として使用した献立である。職員もさりげなく支援しながら一緒に食事を摂っている。ゆっくりとした食事時間で、会話もあり、家庭的な食事である。調理の下ごしらえ、配膳、後片付け等も見受けられ、和やかな食事への支援が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、希望にあわせて、何時でもゆっくりと入浴できる。現在は昼間の入浴であるが、夜間入浴の希望があれば、職員の勤務体制を工夫して、希望に応じることが出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味が把握されており、書道や工芸作品が見受けられる。新聞を読んだり、カラオケで歌ったり、畑の手入れ、ボタン付けや雑巾縫い、洗濯物の世話、その他いろいろな役割や楽しみがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望によって、買い物、近隣への散歩等があり、近所の方と顔なじみになっている方もある。車椅子使用の方も玄関先の広場に出たり、近所まで出かける機会を設ける等の支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はなく、自由に出入りが出来るために閉塞感もない。センサーもあるが、職員が目配りや気配り、連携で外出を察知している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を受けての避難訓練や、ホーム独自での避難訓練が実施されている。しかし夜間を想定した訓練や地域の協力を得ての避難訓練は実施出来ない。台風災害に備えては事前に情報を収集し、非常用の水等を備えている。	○	避難訓練については、運営推進会議の議題にも取り上げられている。地域とのつながりを深める意味からも近所や地元消防団への呼びかけが検討されており、その実現を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や食習慣を考慮し、野菜をふんだんに取り入れた、高齢者向けの献立である。水分摂取量も確保されている。咀嚼や嚥下力が落ちてきた方にも、食材をそのままの形で出した後に、細かく食べやすいようにする等の支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の広いガラス窓からは、四季の移り変わりや菜園の作物の生育が楽しめる。また、自然の光が差し込んで明るい室内である。障子を使用しているため、より柔らかい明るさである。季節の花もさりげなく生けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はその方らしいゆっくりとくつろげる所になっている。居室入り口には、家族が書いた表札がかけられている。ダンス、鏡台、椅子、時計、孫の写真、書道の作品、観葉植物、その他いろいろな馴染みの物で生活環境が工夫されている。		